



重曹水溶液の濃度の違いによる雑草抑制効果は、濃度2.50/m²で違いがみられました。散布回数の違いによる効果は最終調査日(12月8日)が冬季だったため、季節的に雑草が枯れてしまい、散布効果による違いを確認することが出来ませんでした。
⇒**散布時期の重要性**を確認出来た試験となりました

噴射の最適期・適期の目安について

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	備考欄
単年草類					1回目 最適期	1回目 適期				2回目 適期			ハハコグサ ヒメジオン アブラナ等
多年草類				1回目 最適期		1回目 適期				2回目 適期			イヌタデ セイタカアワダチ その他多く
地下茎類 (土中式)			1回目 適期		1回目 最適期					2回目 適期			スギナ クズ シダ類等
ササ類 竹類 (土中式)				1回目 最適期		1回目 適期				2回目 適期			シイタケ モウソウタケ ササ類等

多年草：通年にわたって地上に姿を見せているものもあるが、地上部の茎や葉が枯れ落ちても地下茎や根などが休眠状態で残り、翌年、そこから再び茎や葉を伸ばす。

地下茎：地中に埋もれる性質を持つ茎。根のように養分を蓄えたり、繁殖の役割をするものも多い。

これまで、3月から7月上旬までに施工すれば効果があるとされていましたが、今回の試験で7月上旬の散布では効果が確認できないということが分かりました。

よって散布最適期は雑草の生育初期段階である、**3月下旬から5月下旬頃**までに散布を行う必要があると考えられます。

今後実施予定の試験結果等につきましては、追ってご報告したいと思っております。雑草との共存を目指した、安全・安心な重曹による除草処理方法の普及に向けて、これからも皆様の多大なご支援、ご協力をよろしくお願い致します。